令和５年度 新時代に対応した
高校授業改革推進事業
（指導・評価研究部門　研究実践報告）

宮崎県立高鍋高等学校　地歴科公民科

報告内容　（研究1年目）

・はじめに　　～高鍋高校（本校）の現状を踏まえた研究について～

・新時代に対応した生徒の能力の育成につながるＩＣＴを
　活用した授業について

・新時代に対応した生徒の能力の育成につながる教科横断的
　または探究的観点を取り入れた授業について
　～指導と評価の一体化を目指して～

・おわりに　～研究１年目を終えて～

はじめに

～高鍋高校（本校）の現状を踏まえた研究～

「新時代に対応した高校授業改革推進事業」とは

◎「指導・評価研究部門」

○ ICTを効果的に活用した個別最適な学び

（「指導の個別化」と「学習の個別化」）

授業研究 ＋ 評価研究　　*ICTを効果的に活用*

➢研究指定校：学校の現状を踏まえた研究　（学校・大学・県教委が連携）

「個別最適な学び」に向けた研究へ

- 生徒の実態や変容を踏まえたPDCAによる研究実践
- 教師のニーズや実践を踏まえた研究の推進
- 研究過程や報告をHPやSNS等を活用して発信

R5.5.8全体説明会資料より作成

新時代に対応した（高鍋）高校授業改革推進事業

➤ **本研究テーマ：「指導」と「評価」の一体化について**

～ ICTの活用を考える ～

令和5年度：現状分析のために、個別でＩＣＴの活用、指導と評価の一体化、探究的観点のある授業の研究を実施する。

令和6年度：令和5年度の研究成果を踏まえ、各科目で本校の現状を踏まえた指導と評価の一体化、探究的観点のある授業等の一定の成果をまとめる。

新時代に対応した生徒の能力の育成につながるＩＣＴを活用した授業

○ ICTを活用した授業実践（研究指定：1年目）

手順 1　ICT活用の実態把握

- 生徒のICT活用の実態（県教委による6月アンケートより）
- 本校のICT活動の実態（他教科・学校行事・部活動等）
- 教職員（地歴科公民科）のICT活用の実態（Googleフォームにてアンケート実施）

手順 2　ICT活用した授業の実践（研究指定：1年目）

- 各教職員のICT活用能力に応じた授業の展開
- 授業実践情報等の共有化（GoogleClassRoomにて『新時代　Let's　ICT』の開設）

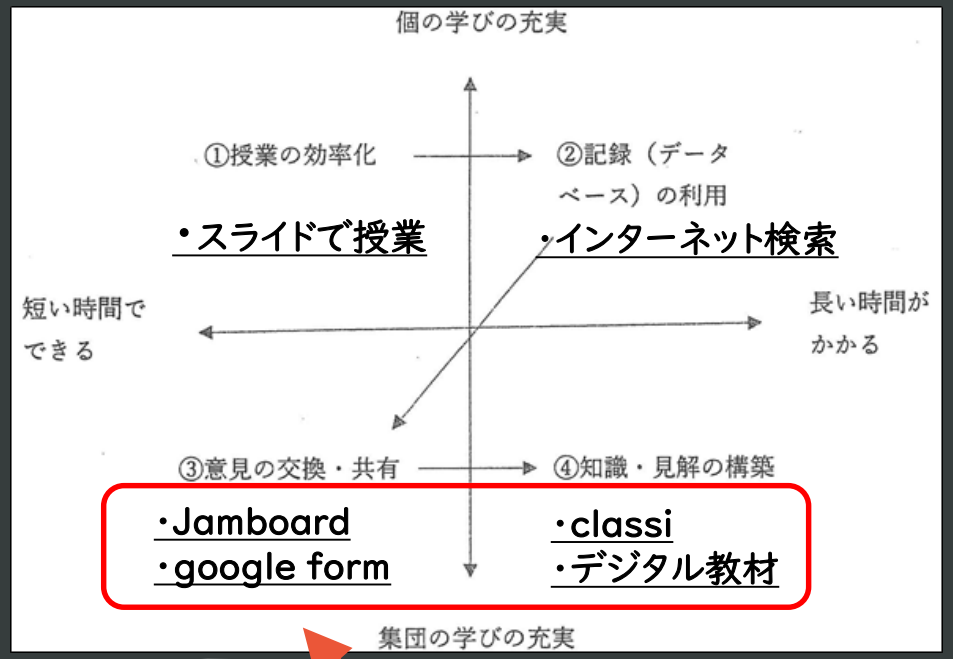
手順 3　ICT活用した授業の反省（来年度に向けて）

- 生徒のICT活用の実態（県教委による12月アンケート及び生徒振り返りシートより）
- 教職員（地歴科公民科）のICT活用の報告及び反省（授業公開①の実践及び協議、県教委によるアンケート、Googleフォームにてアンケート実施）

本校の実態について

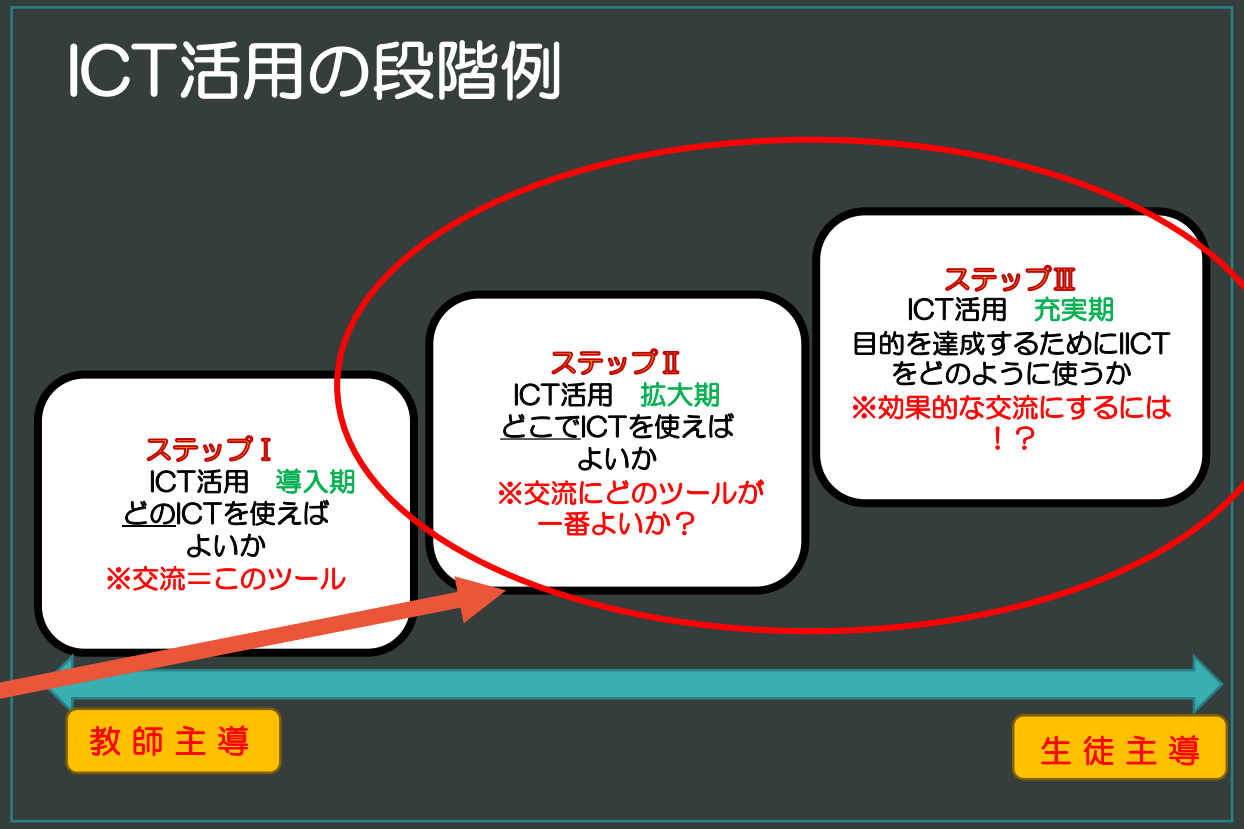
◎令和４年度指定校である日向高校

資料より



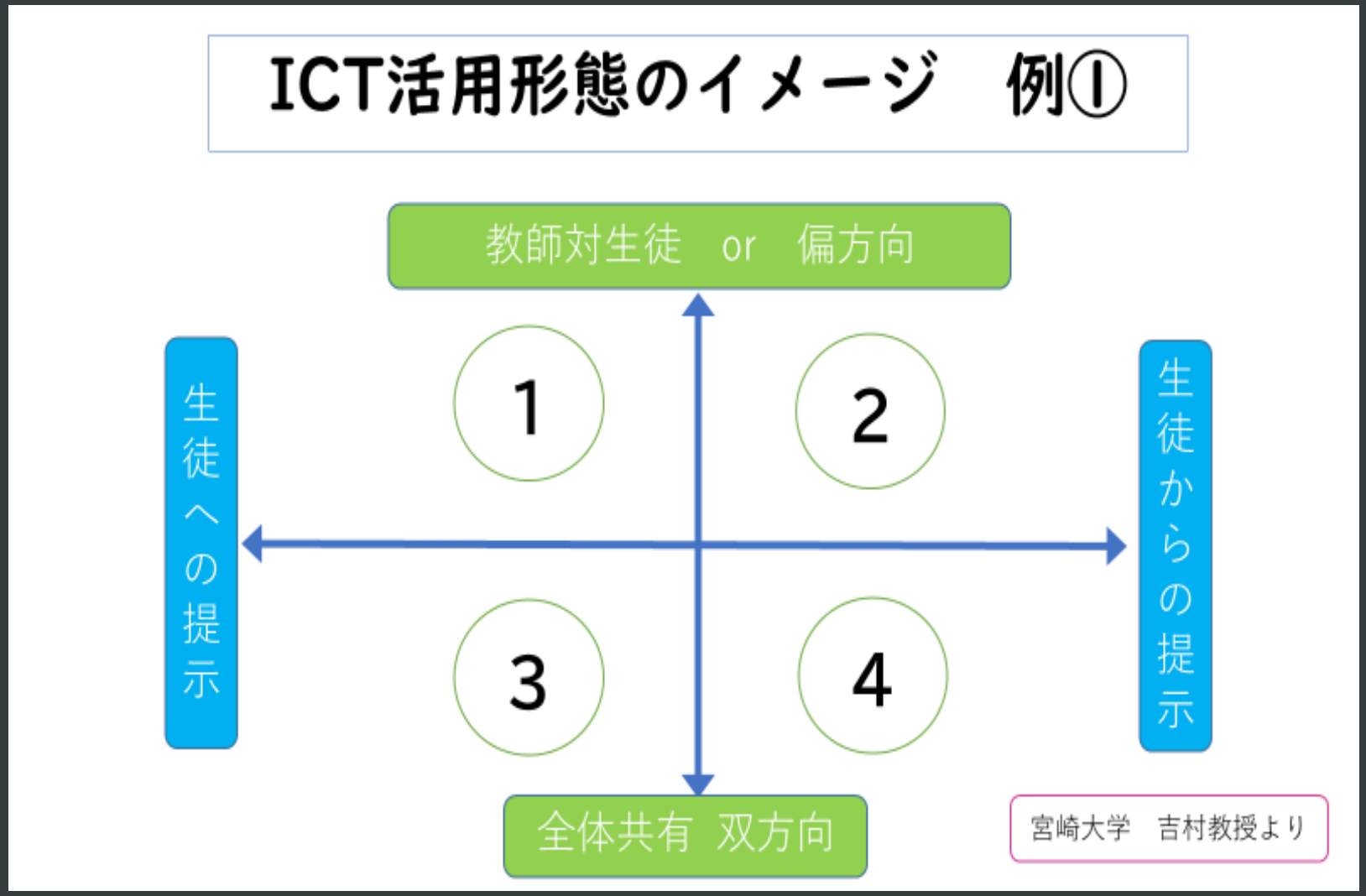
◎令和5年度新時代に対応した高校授業

改革推進事業分科会での資料より

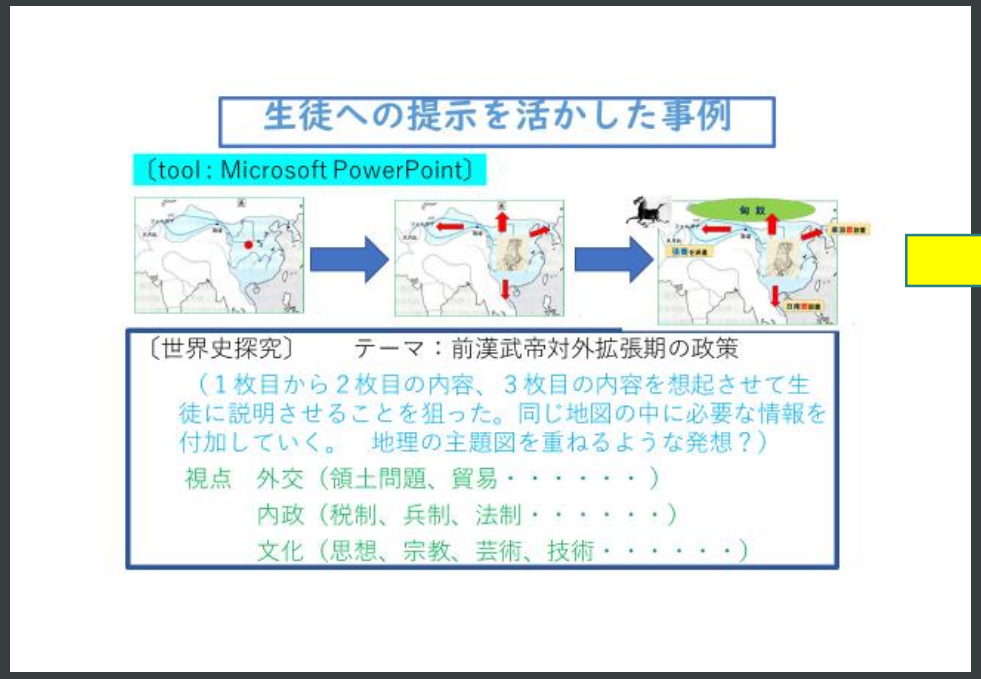


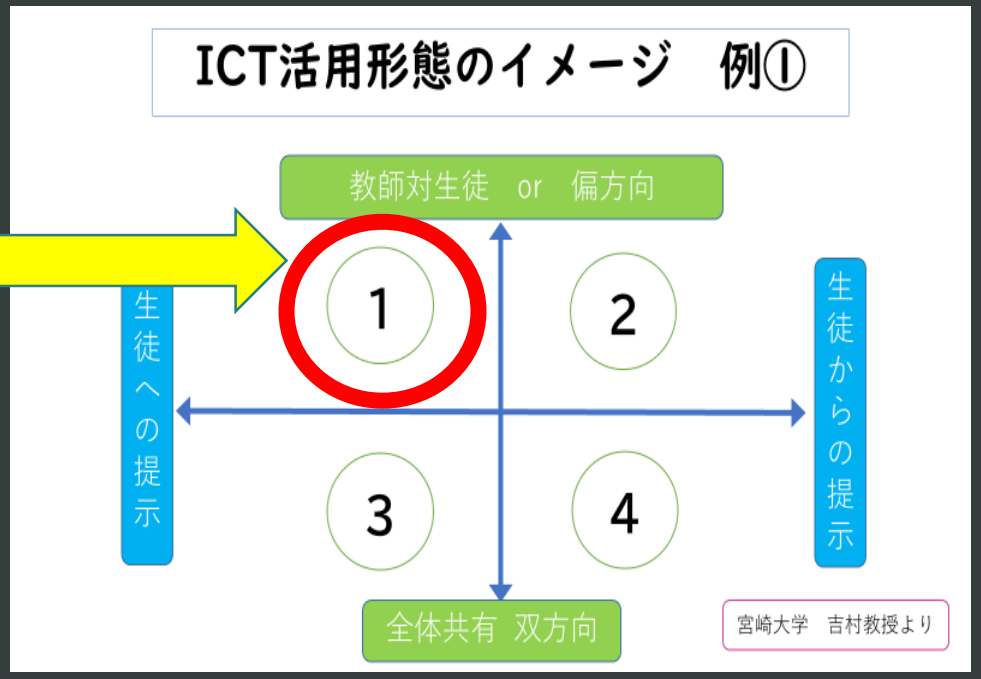
今年の目標は、③、④及びステップⅡ、Ⅲ

各教職員のICT活用能力に応じた授業の展開



各教職員のICT活用能力に応じた授業の展開





ICT活用能力に応じた授業の展開（世界史探究）

パワーポイントを用いた授業‥‥ 葛藤

①きっかけ

・コロナ禍での休校（授業時数の削減）
・“進度の遅れ”を、以前より問題視

→ 進度の遅れを解消したい!!

②自分のICTスキル

・パワーポイントでのプレゼン等 → ほぼ未経験

・Zoom Google Classroom Jamboard スプレッドシート → 未知の世界（怖い・不安）

③ チャレンジ開始（令和２年度）

・「(休校中の)今なら、準備の時間がある」
・「まずは、できそうなことをやってみよう!! 」

ICT活用能力に応じた授業の展開（世界史探究）

パワーポイントを用いた授業‥‥ 試み

その①

板書時間の短縮・効率化　**知識**の整理(理解・定着)

レイアウト‥‥授業プリントに沿ってコンパクトに!!

文字の色・大小の使い分け‥‥ポイントの明確化!!

スライドの転換‥‥説明に沿って、順次!! (一気に見せない)

その②

資料提示の効率化 ➡ 確認・説明・「問いかけ」で有用

地図 ／ 写真・絵画

統計・グラフ ／ 史料文書

思考力・判断力・読解力
の育成（興味・関心）

ICT活用能力に応じた授業の展開（世界史探究）

パワーポイントを用いた授業‥‥ 効果

その①

学びの共有 ← スライドのリピート的利用

- 主題を貫く「問い」→毎時間、確認しやすい!!
- 授業の導入 → 本時の目標や、見通しを持たせやすい!!
- 授業のまとめ → ポイントの振り返りがしやすい!!

その②

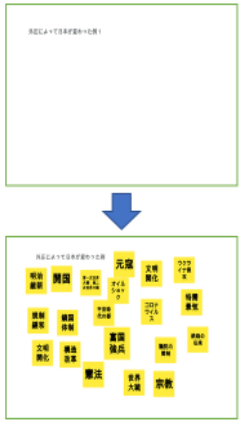
学習形態の可能性が拡大 ← Google Classroom にup!!

- 生徒が自宅で振り返ることができる!!
- スライドシートを用いた小テストも可能!!
- オンライン形式の受講が可能?!!（休講・不登校）

各教職員のICT活用能力に応じた授業の展開

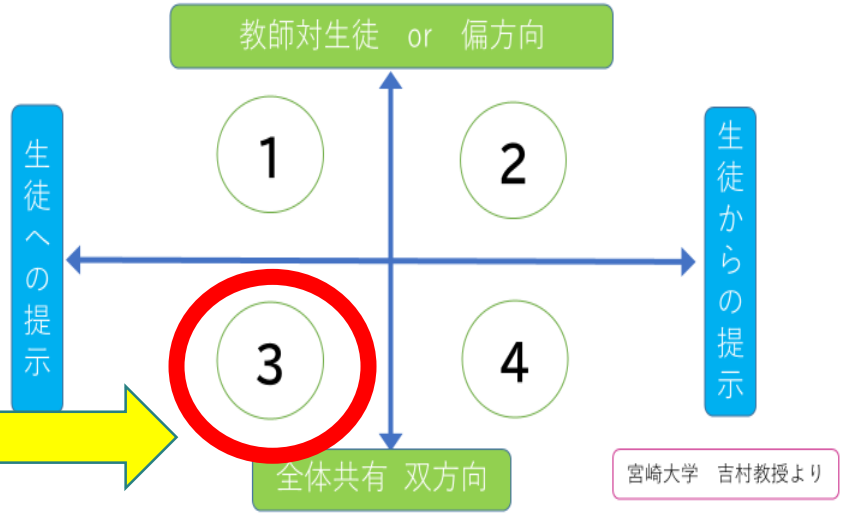
生徒からの提示を活かした事例（１／２）

〔tool : google jamboard〕



- 課題：日本の変革期
  →既有の知識を元に、生徒が付箋で記入
  （全体共有）
- 既知の歴史的事象の中から変革期に該当すると考えるものを選択して示す。
- クラス全員の考えを共有可能にする。（生徒は個々に既有の知識を再確認する）
- 教師→幕末・明治維新と第二次世界大戦後の民主化という二つの時期を提示
- 〔意図〕jamboardによる復習的活動＋探究テーマ（日本の変革期）への意識付け

ICT活用形態のイメージ　例①

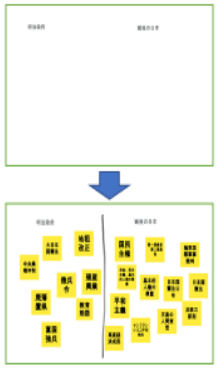


宮崎大学　吉村教授より

各教職員のICT活用能力に応じた授業の展開

生徒からの提示を活かした事例（2／2）

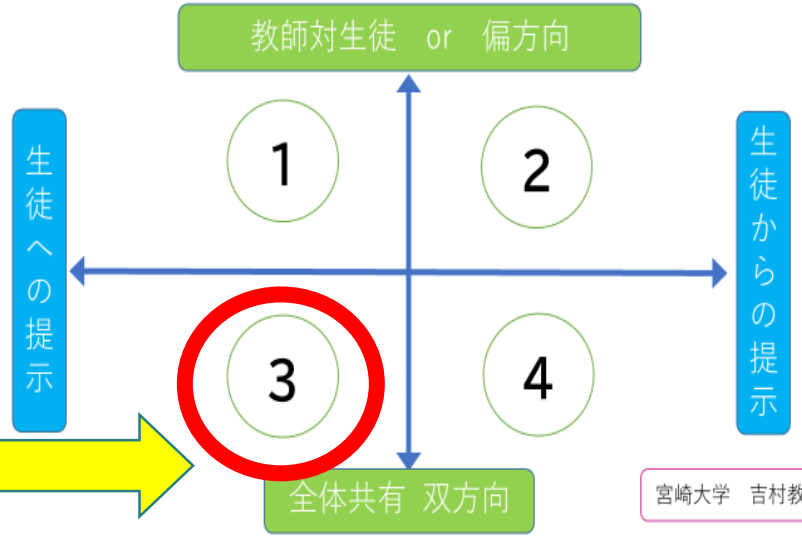
〔tool：google jamboard〕



- 課題：明治維新と戦後の民主化
  →既存の知識を元に、生徒が付箋で記入　（全体共有）
- 既知の歴史的事象の中から変革期に該当すると考えるものを選択して示す。
- クラス全員の考えを共有可能にする。（生徒は個々に既存の知識を再確認する）
- 補足→歴史的事象を複数の観点（見方・考え方）で生徒に整理させるという方法も可能。

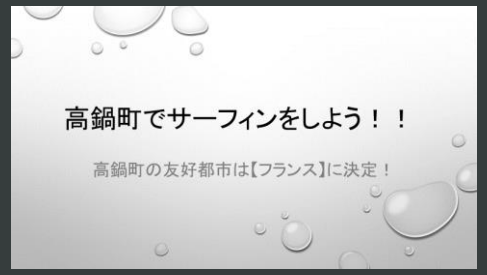
- 探究課題：変革期としての古代の日本について
  外交、内政（税制、兵制、法制・・）、文化

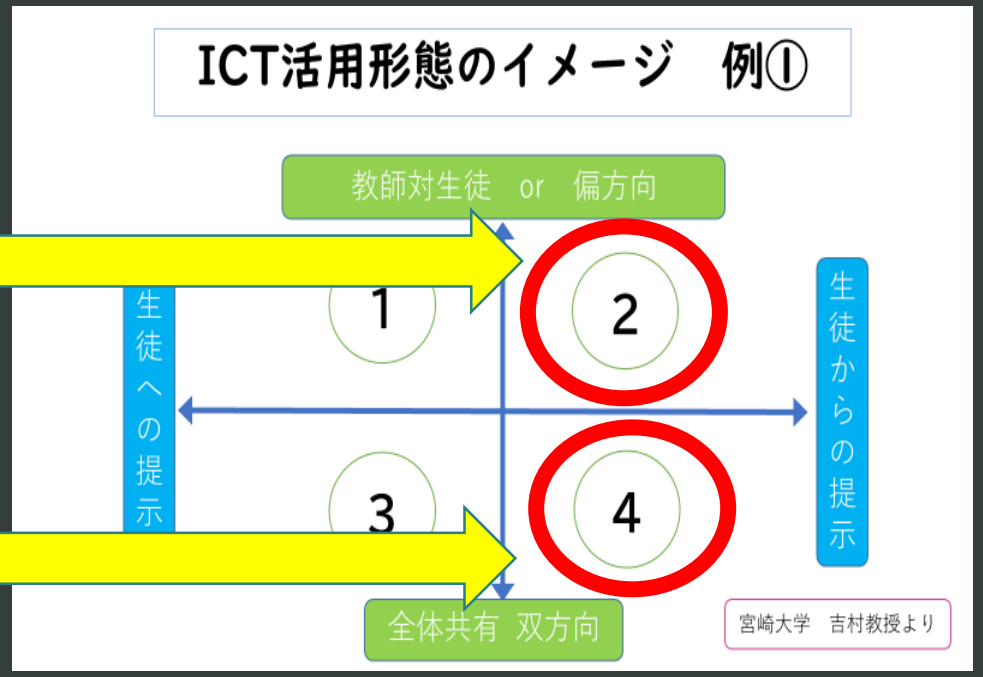
ICT活用形態のイメージ　例①



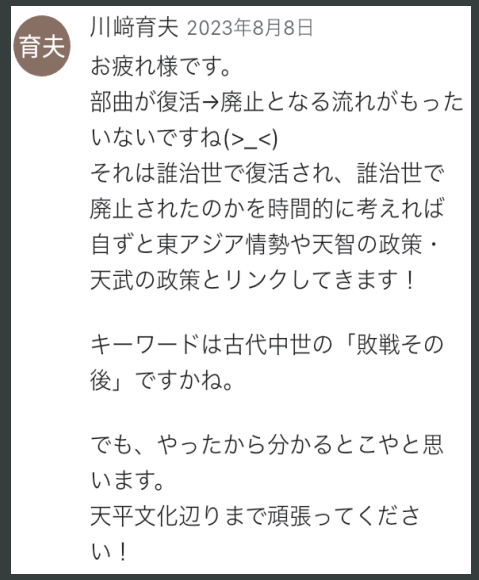
宮崎大学　吉村教授より

各教職員のICT活用能力に応じた授業の展開





授業実践情報等の共有化について
～GoogleClassRoomにて『新時代　Let’s　ICT』の開設～



成　　果

○板書時間の短縮・効率化

○資料提示の効率化

○学びの共有

○学習形態の可能性が拡大

○採点機能等の活用

（進捗状況や理解度の把握・分析が容易）

○記録の蓄積（ 評価の材料等）

課　　題

○設備（ハード）等の更なる充実
　（ネットワーク環境、充電等）
○教職員での共通理解、研修 等
○生徒のタブレット使用条件
○デジタル教材のカスタマイズの充実

新時代に対応した生徒の能力の育成につながる教科横断的または探究的観点を取り入れた授業

～指導と評価の一体化を目指して～

教科横断的または探究的観点を取り入れた授業実践
～指導と評価の一体化を目指して～
（研究指定：1年目）

手順 1　教科横断的または探究的観点を取り入れた授業の実態把握

- 生徒の授業や自宅学習等の実態（県教委による6月アンケートより）
- 教職員（地歴科公民科）の授業に対する実態（Googleフォームにてアンケート実施）

手順 2　教科横断的または探究的観点を取り入れた授業の実践（研究指定：1年目）

- 各教職員の教科横断的または探究的観点を取り入れた授業及び指導と評価の一体化した授業の展開
- 授業実践情報等の共有化（GoogleClassRoomにて『新時代 Let's　ICT』の開設）

手順 3　教科横断的または探究的観点を取り入れた授業の反省（来年度に向けて）

- 生徒の授業や自宅学習等の実態（県教委による12月アンケート及び生徒振り返りシートより）
- 教職員（地歴科公民科）の授業報告及び反省（授業公開②の実践及び協議、県教委によるアンケート、Googleフォームにてアンケート実施）

新時代に対応した生徒の能力の育成につながる探究的観点を取り入れた授業及び評価との一体化を考えた授業への展開（地理探究）

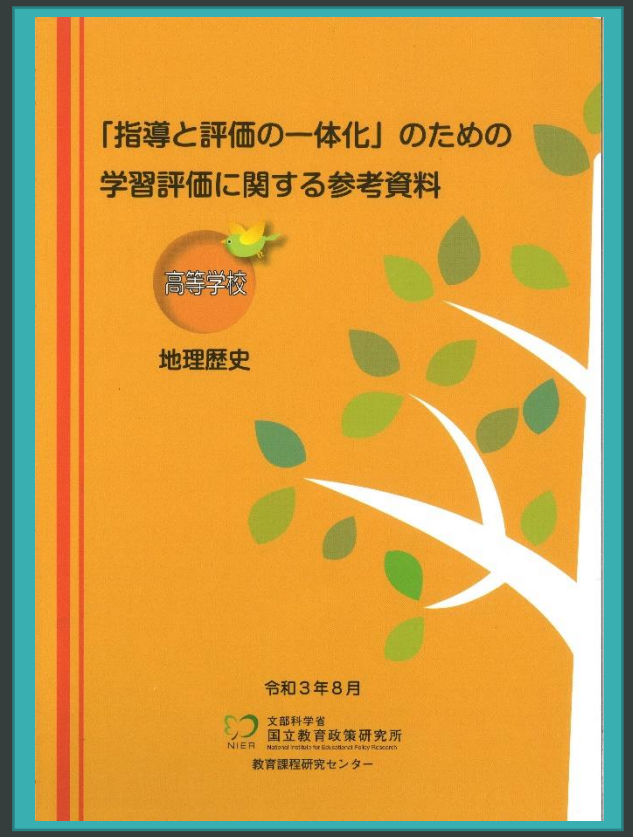
社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動

↓

探究的観点を取り入れた授業

↓

地理的な見方・考え方を育成する



探究的観点を取り入れた授業の流れ（地理探究）
（地理的な見方・考え方を育成する）

① ねらいと問い（単元を貫く問い・小単元・課題）の確認

↓

② 問いや課題に対する自分なりの見通し（仮説）を立てる

↓

③ 基礎・基本的地理的事象の確認

↓

④ 資料・写真等の活用や探究的手法（ESD）

↓

⑤ 学習プロセスの振り返りシート

◎学びの視点を明確にして

Ⅰ 見通し

↓

Ⅱ 関連付け

↓

Ⅲ 考 察

探究的観点を取り入れた授業の流れ（授業公開②地理探究）
（地理的な見方・考え方を育成する）

課題ｈ：和牛肉（宮崎牛肉）の価格は何故、高いのだろうか、また2035年の価格はどうなっているのだろうか。

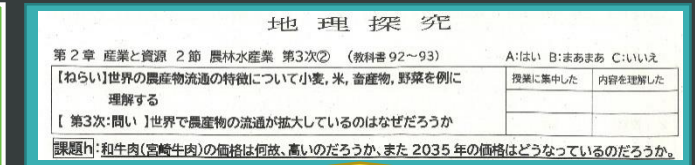
本時MQ：和牛肉（宮崎牛肉）の価格は何故、高いのだろうか

STEP１　農業の成立条件

【和牛肉（宮崎牛）に関わる条件について考える】

STEP２　農業の生産性及び農業形態

【和牛肉（宮崎牛）の農業形態や労働生産性・土地生産性を考える。】



地　理　探　究

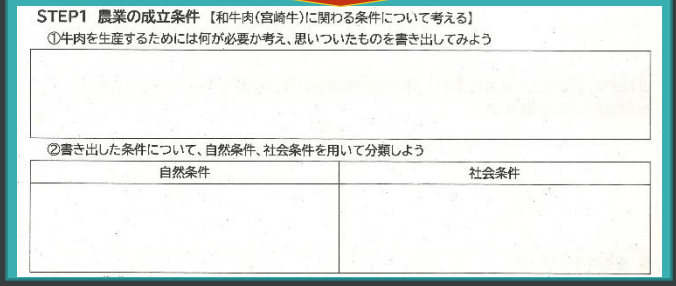
第２章　産業と資源　２節　農林水産業　第3次②　（教科書 92～93）　A:はい　B:まあまあ　C:いいえ

	授業に集中した	内容を理解した
【ねらい】世界の農産物流通の特徴について小麦, 米, 畜産物, 野菜を例に理解する		
【 第3次:問い 】世界で農産物の流通が拡大しているのはなぜだろうか		

課題h：和牛肉(宮崎牛肉)の価格は何故、高いのだろうか、また 2035 年の価格はどうなっているのだろうか。

・小単元ごとに「ねらい」「問いを」を示す
・簡単な自己評価をする

・既存の知識を整理する



STEP1　農業の成立条件　【和牛肉(宮崎牛)に関わる条件について考える】

①牛肉を生産するためには何が必要か考え、思いついたものを書き出してみよう

②書き出した条件について、自然条件、社会条件を用いて分類しよう

自然条件	社会条件

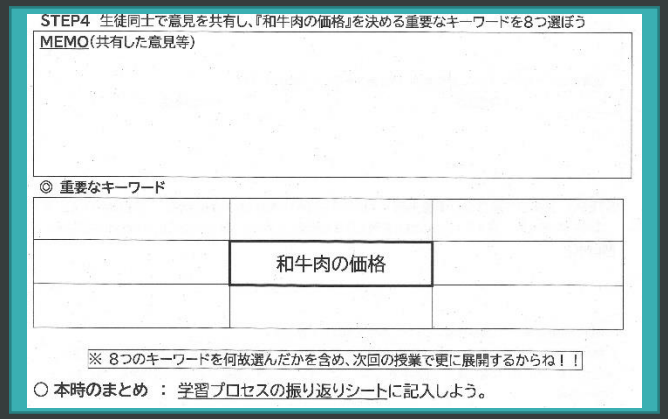
探究的観点を取り入れた授業の流れ（授業公開②地理探究）
（地理的な見方・考え方を育成する）

STEP３　和牛肉（宮崎牛）の価格は何で高いの！？

※資料から読み取れることは何か

STEP４　生徒同士で意見を共有し、『和牛肉の価格』を

決める重要なキーワードを８つ選ぼう


STEP4　生徒同士で意見を共有し、『和牛肉の価格』を決める重要なキーワードを8つ選ぼう

MEMO（共有した意見等）

◎ 重要なキーワード

	和牛肉の価格	

※ 8つのキーワードを何故選んだかを含め、次回の授業で更に展開するからね！！

○ 本時のまとめ ： 学習プロセスの振り返りシートに記入しよう。

STEP５　２０３５年の日本や世界は、どのような未来になっているのだろうか

STEP６　STEP４のマンダラートを参考にキーワードマッピングを作成しよう。
（jamboard等）

STEP７　課題ｈ：和牛肉（宮崎牛肉）の価格は何故、高いのだろうか、また2035年
の価格はどうなっているのだろうか。

本時のまとめ：第３次　問い　世界で農産物の流通が拡大しているのはなぜだろうか

指導と評価の一体化した授業実践を目指して
（地理探究）

OPPシートの活用　OPP（One Page Portfolio）

➤単元を通して学習したことを１枚のシートに

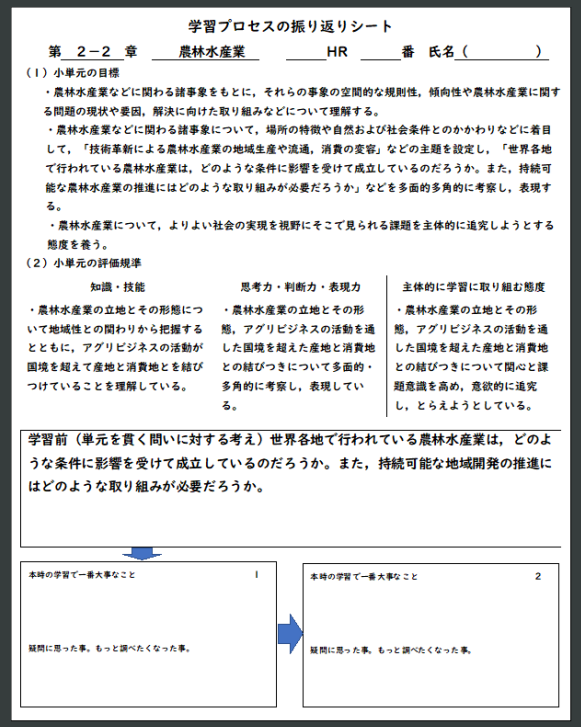
まとめて、生徒の学習内容を積み重ねていくもの。

・**単元を貫く問い**：各授業で、重要だと思ったことと

疑問〔問い〕等を記入

・**小単元**：学びの視点を明確にして

（Ⅰ 見通し　Ⅱ 関連付け　Ⅲ 考察）



学習プロセスの振り返りシート

第　2－2　章　農林水産業　　HR　　番　氏名（　　）

（１）小単元の目標

・農林水産業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や農林水産業に関する問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解する。

・農林水産業などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会条件とのかかわりなどに着目して，「技術革新による農林水産業の地域生産や流通，消費の変容」などの主題を設定し，「世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な農林水産業の推進にはどのような取り組みが必要だろうか」などを多面的多角的に考察し，表現する。

・農林水産業について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

（２）小単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・農林水産業の立地とその形態について地域性との関わりから把握するとともに，アグリビジネスの活動が国境を超えて産地と消費地とを結びつけていることを理解している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて多面的・多角的に考察し，表現している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて関心と課題意識を高め，意欲的に追究し，とらえようとしている。

学習前（単元を貫く問いに対する考え）世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な地域開発の推進にはどのような取り組みが必要だろうか。

本時の学習で一番大事なこと　1

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

本時の学習で一番大事なこと　2

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

地理探究における「小単元の評価規準」

● 小単元「農林水産業」

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
農林水産業の立地とその形態について地域性との関わりから把握するとともに，アグリビジネスの活動が国境を超えて産地と消費地とを結びつけていることを**理解**している。	農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて**多面的・多角的に考察し，表現**している。	農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて関心と課題意識を高め，**意欲的に追究し，とらえよう**としている。

日本史探究　ルーブリック評価　第Ⅱ部　中世　1

章（学習内容）	評価の観点	A 十分に到達できている	B 概ね到達できている	C 到達に努力を要する
第５章　院政と武士の躍進 ・院政の始まり ・院政と平氏政権	知識・技能	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向について、複数の史･資料を活用することで十分に理解できている。	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向について、複数の史･資料を活用することで概ね理解できている。	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向について、複数の史･資料を活用しながら理解できていない。
	思考・判断・表現	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向についての問いに対して、多面的・多角的に考察し、複数の根拠を示しながら適切に表現できている。	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向についての問いに対して、多面的・多角的に考察し、根拠を示しながら概ね表現できている。	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向についての問いに対して、多面的・多角的に考察ができず、表現できていない。
	主体的に学習に取り組む態度	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向についての問いに対し、自らの答えを導きだそうと意欲を持って取り組むことができている。他とも意見を共有することで自らの考えを深めようと努めている。	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向についての問いに対し、自らの答えを導きだそうと取り組むことができている。	貴族政治の変容と武士の政界進出、土地支配体制の変容、文化における新しい動向についての問いに対して、自らの答えを導きだそうとしていない。

日本史探究　ルーブリック評価　第Ⅱ部　中世　2

章（学習内容）	評価の観点	A 十分に到達できている	B 概ね到達できている	C 到達に努力を要する
第６章　武家政権の成立 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	知識・技能	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開について、複数の史・資料を活用しながら十分に理解できている。	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開について、複数の史・資料を活用しながら概ね理解できている。	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開について、複数の史・史料を活用しながら理解できていない。
	思考・判断・表現	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開についての問いに対して、多面的・多角的に考察し、複数の根拠を示しながら適切に表現できている。	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開についての問いに対して、多面的・多角的に考察し、根拠を示しながら概ね表現できている。	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開についての問いに対して、多面的・多角的に考察ができず、表現できていない。
	主体的に学習に取り組む態度	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開についての問いに対し、自らの答えを導きだそうと意欲を持って取り組むことができている。他とも意見を共有することで自らの考えを深めようと努めている。	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開についての問いに対し、自らの答えを導きだそうと取り組むことができている。	ユーラシアとの交流やその影響に着目して、武家政権の成立や展開、公武の関係の変化、産業の発達、宗教と文化の展開についての問いに対して、自らの答えを導きだそうとしていない。

思考力・判断力・表現力等」を測る評価問題

問．下線部dが日本の近代化にどのような影響を与えたのか。（　２　）で学んでいたことに触れながら、簡潔に説明せよ。（歴史総合1年）

- １７世紀初め、日本では江戸幕府が中国やヨーロッパと積極的に交易を行っていたが、a次第に他国との接触を制限するようになった。具体的には、長崎で［　Ａ　］・［　Ｂ　］、［　Ｃ　］で朝鮮、b薩摩藩で琉球王国、［　Ｄ　］で蝦夷地（アイヌの人々）とのみ交易を行った。このような政策を（　１　）という。
- 海外との接触を避ける中、日本国内では農村やc交通網が発達していった。また、教育や学問も盛んになり、d庶民の教育機関である（　２　）が各地で増加した。武士については、藩校で儒学や国学、西洋の科学を学ぶ（　３　）が教えられ、その後の日本の近代化に影響を与えた。

思考・判断・表現の評価基準

評価	評価基準
A	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などについて、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、それらを資料に基づいて多面的・多角的に考察することができている。加えて、歴史に見られる課題や現代的な諸課題の解決を視野に入れて考察し、それを説明したり他者の主張を踏まえて再構成して議論したりすることができている。
B	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などについて、資料を収集、選択、活用し、資料に基づいて考察している。加えて，考察したことを説明している。
C	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などについて考察しているが、事象相互の関連や資料に基づいていない。
D	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などについて、表現はしているが、積極的な考察をしていなかったり、自分の言葉で表現していなかったりしている。

相互評価シート及び「主体的に学習に取り組む態度」を測る評価シート、自己評価シート等

プレゼンメモ：自由にメモしてください。

回答を入力

内容：内容をよく調べている

- ○ 2
- ○ 1
- ○ 0
- ○ −1

構成：発表の流れが論理的で説得力がある

- ○ 2
- ○ 1
- ○ 0
- ○ −1

学習プロセスの振り返りシート

第　2−2　章　　農林水産業　　HR　　番　氏名（　　）

（1）小単元の目標

・農林水産業などに関わる諸事象をもとに，それらの事象の空間的な規則性，傾向性や農林水産業に関する問題の現状や要因，解決に向けた取り組みなどについて理解する。

・農林水産業などに関わる諸事象について，場所の特徴や自然および社会条件とのかかわりなどに着目して，「技術革新による農林水産業の地域生産や流通，消費の変容」などの主題を設定し，「世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な農林水産業の推進にはどのような取り組みが必要だろうか」などを多面的多角的に考察し，表現する。

・農林水産業について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

（2）小単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・農林水産業の立地とその形態について地域性との関わりから把握するとともに，アグリビジネスの活動が国境を超えて産地と消費地とを結びつけていることを理解している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて多面的・多角的に考察し，表現している。	・農林水産業の立地とその形態，アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて関心と課題意識を高め，意欲的に追究し，とらえようとしている。

学習前（単元を貫く問いに対する考え）世界各地で行われている農林水産業は，どのような条件に影響を受けて成立しているのだろうか。また，持続可能な地域開発の推進にはどのような取り組みが必要だろうか。

本時の学習で一番大事なこと　1

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

本時の学習で一番大事なこと　2

疑問に思った事。もっと調べたくなった事。

歴史総合　自己振り返り

各4択

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	やろうとしなかった

問1．各メインクエスチョンに対して、小単元の学習をふまえて自分なりにまとめることができたか。

問2．　授業中の質問に対して、教科書や周りの人の意見を参考にしながら、考えたり、表現したりすることができたか。

問3．　学習の内容について、過去と現在、世界のつながりや現代社会の課題と関連させながら考えることができたか。

問4．今回の学習を通して、わからなかったところ、もっと知りたいことがあれば、自由に書いてください。

問5．今回の単元の学習や授業の感想を自由に書いてください。

振り返りシート　102　日本の位置と領域

今回の授業でわかったこと、気づいたことなど *

回答を入力

今回の授業で疑問に思ったことなど
※あれば記入

回答を入力

成　　果

○指導目標が明確化

○育てたい資質能力（地理的な見方・考え方を育成する）を意識した授業の実施

→教科書内容を網羅的に行わなくてすむ。

○課題（宿題）や定期考査の在り方を見直し

→課題内容を小テストや単元テストで、その定着を確認できる。

課　　題

○評価の方針を教師間で異ならないようしっかりとした準備（話し合い）が必要。

→信頼性を確保するためにも、教師の主観でなく、誰が評価しても同じ結果になることを目指す

→カリキュラム・マネジメントは中核的な役割を担っているため、教科科目だけでなく、ある程度の学校全体で意思統一が必要ではないか。

○本校の観点別評価が生徒の実態に合っているか。

→学習評価の妥当性を高めるため、学習指導のねらい、評価基準の見直しを明確にする必要性。

○生徒の自己評価を活かす工夫

おわりに

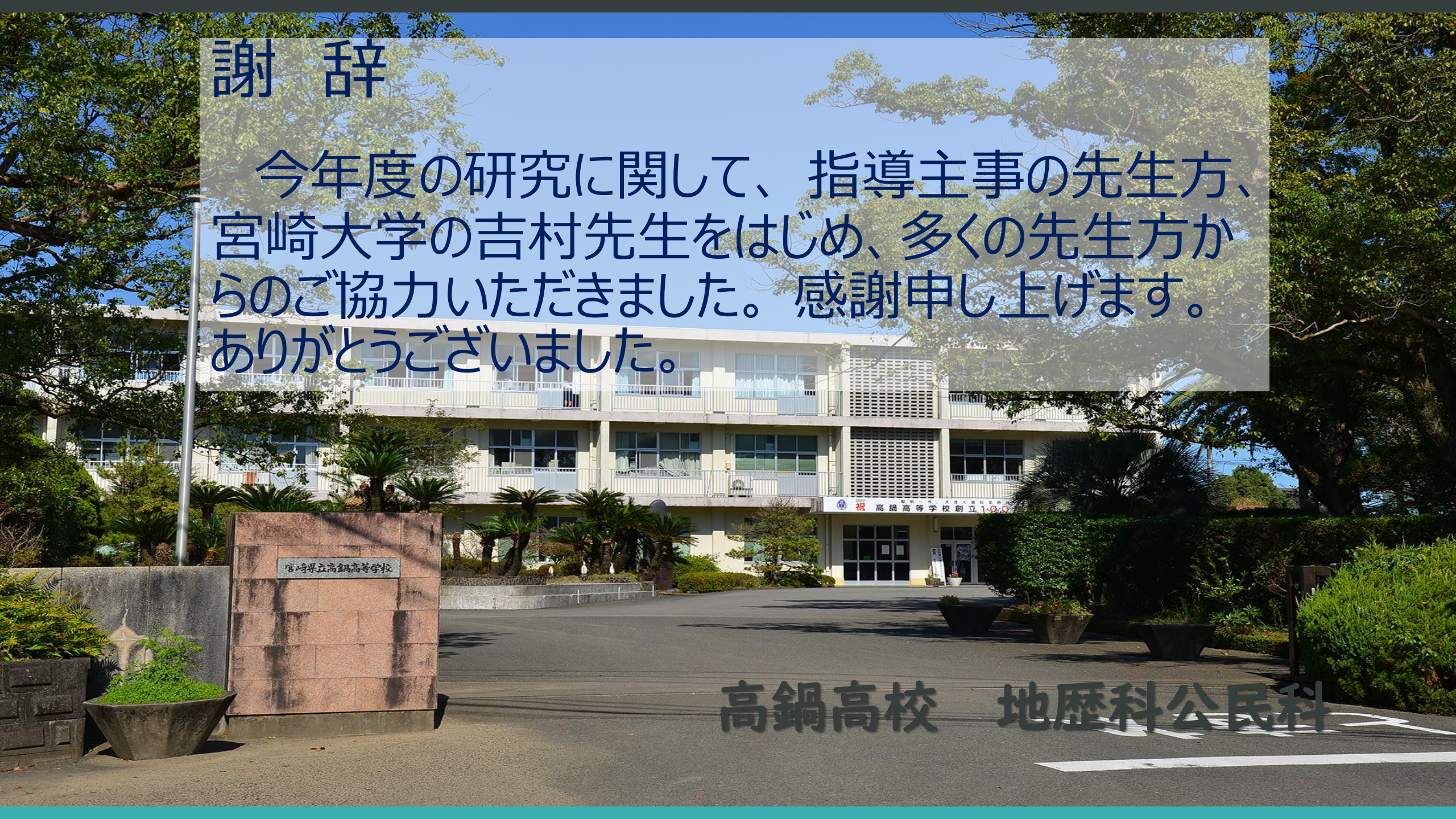
～研究１年目を終えて～

研究１年目を終えて

　各教職員のICT活用能力に応じて授業研究の実践をした。初めて使用する職員が多い中、一同に全生徒の意見を共有できるメリットや発言の記録の有効性に実感するなど、ICTの有用性に気づかされたため、今後、本校でも使用頻度が増していくと思われる。ICTの活用が教師主導から生徒主導にシフトが進めば、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」（「指導の個別化」と「学習の個別化」）に近づくのではないか。また「個別最適な学び」を実現するためには、「自らの学習を調整しようとする力」が重要と思うので、引き続き探究的観点を取り入れた授業を通して、自走する力を育成していきたい。

謝　辞

　今年度の研究に関して、指導主事の先生方、宮崎大学の吉村先生をはじめ、多くの先生方からのご協力いただきました。感謝申し上げます。ありがとうございました。



高鍋高校　地歴科公民科